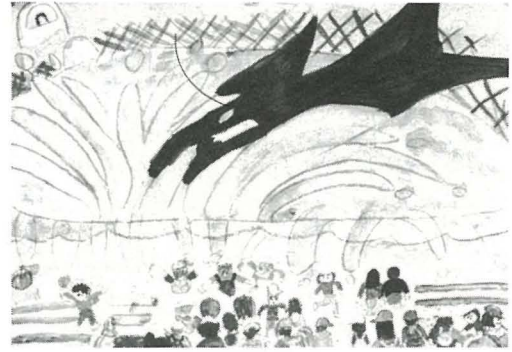


『遠足』



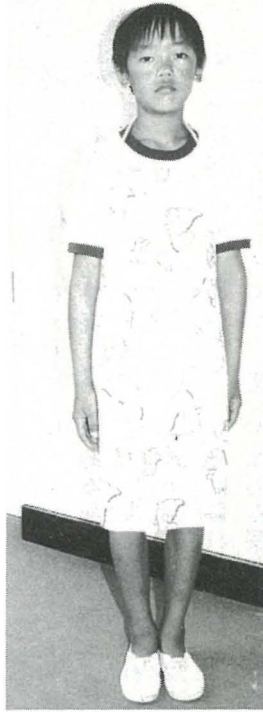
3年

山崎 ちさとさん

※シャチやイルカのシ
ョーが、とてもおも
しろかったです。



『エプロン』

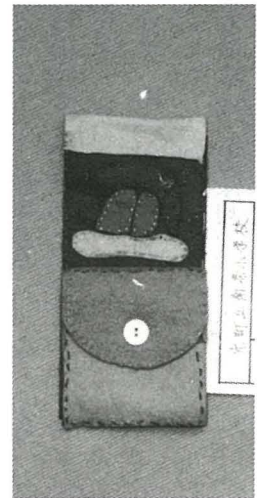


6年

鈴木 智くん

※ポケットの絵のしし
ゆうが、よくできま
した。大切に使いま
す。

『小ぜに入れとえんぴつ入れ』



5年
戸村雅之くん

※ボタンを2重にして
まいてよくつけた。
小ぜに入れとえんぴ
つ入れを、工夫して
作りしました。

『うでずもうをしている
友だち』



4年

鈴木 睦美さん



※友だちがうでずも
うをしている所を、か
きました。顔の形や
力をいれているとこ
ろが、むずかしかつ
たです。

ひかり歌壇

米の値は年々上ると思ひしに
休耕に次ぎ米価低落

大木静波子 (篠本二区)

一人逝き二人減りして友の計に
他人事ならず吾が身佗びしむ

伊藤 定男 (尾垂五区)

梅雨明けの青田を風の渡りゆく
葉陰にほのかな稲穂見え初む

大林 恒吉 (長塚)

郷里も身内も捨てて移住せし
人の哀観記録あらわに

青柳 フミ (橋場)

明けやらぬ朝目覚めて床ぬ裡に
癒ひし吾が身をしみじみ思ふ

伊藤 鏡子 (虫生)

色褪せし着物捨て得ず虫干しに
甦りくる思ひ出たぐる

土屋 好 (虫生)

吾が愚痴を聞き止めくるる耳たしか
病みても夫の心健やか

椎名 静子 (二又)

九十九里の磯に朽ち居る漁船に
アンセリウムを活けて夢呼ぶ

竹内 紀葉 (篠原)